

図書館だより

2023 秋

No. 268

調布市立図書館

水木しげる氏

表紙絵

＝さあ！楽しもう＝

表紙絵：水木しげる

- ・ 特集1：図書館活用術 2～4
- ・ 染地分館・若葉分館からのお知らせ 5
- ・ 特集2：「夜空のむこう」 6～7
- ・ 職場体験に中学生がやってきました 7
- ・ 郷土の歴史と伝承 8

※音声版、マルチメディアDAISY版もあります。ご希望の方は図書館へお問合せください。



特集 図書館活用術

意外に知られていない図書館の耳より情報を紹介します。

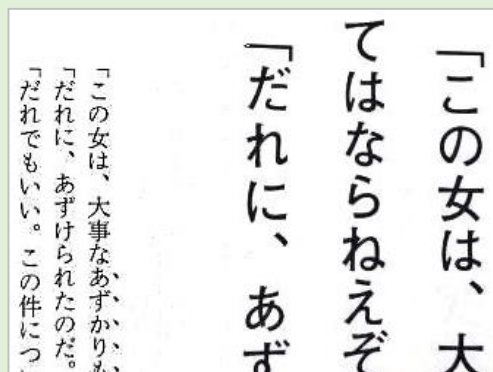
活用術 その1

“大活字本”をご存じですか？

大活字本とは、内容はそのまま活字を大きくした本です。通常の小さな字では読みづらい方のために、文字の大きさや行間の広さが工夫されています。

各分館で半年ごとに蔵書を入れ替えていますので、いろいろな作品を楽しんでいただけます。

大人向けと子ども向けに、大活字本の一覧も用意しています。図書館にお問合せください。



通常の本

大活字本
(約22ポイント)

活用術 その2

紙芝居を盛り上げたい！

紙芝居をいれる木製の枠、「紙芝居舞台」を使ってみてはいかがでしょうか。図書館では、紙芝居舞台の貸出もしています。

読み聞かせサークルや、小学校の親子読書などでも人気です。個人の方も利用できます。



活用術 その3

大人だって紙芝居を楽しみたい！



中央図書館では、大人向けの紙芝居とその一覧をご用意しています。『曾根崎心中』などの日本の古典作品や、笑い話など様々なジャンルがあります。

大人向けのおはなし会やイベントなどで、ぜひご活用ください。



資料確認票（レシート）は語る！

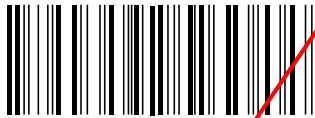
図書館内にある「ぴゅー太（館内蔵書検索用パソコン）」で資料検索をしたことはありますか？
 検索後、画面の「印刷」ボタンを押すと資料確認票（レシート）が出ます。
 このレシートには、情報がいっぱい！ 読み解くワザをご紹介します。

資料確認票

書名 : いつでも、どこでも、だれでも
 -図書館へようこそ！-

著者名 : 調布市立図書館編
 出版社 : 調布市立図書館
 出版年月 : 2000. 4
 価格 : ¥300
 ページ数 : 100p
 大きさ : 21 cm
 ISBN : 9784123456789

書誌番号 : 009876543



所蔵館	禁帯	状態	配架場所	請求記号
●▲		貸出中	一般	016. 2 チ
●▲	禁帯	在庫	書庫	016. 2 チ
中央		在庫	5階一般	016. 2 チ
中央	禁帯	在庫	5階地域	T.01 016. 2-チ
中央		在庫	地下書庫	016. 2 チ
国領		貸出中	一般	016. 2 チ

ほか、20点の資料があります。

調布市立図書館 ●▲分館
 2023/9/25 9:30 作成

書名・著者名など、資料の情報です。

◆ 本を探す際は大きさをチェック！
 大きいサイズの本は、本棚の最下段にある場合があります。

資料がある場所です。

◆ 「地下××」「書庫」「閉架」などの資料は、職員がお出しします。このレシートを職員にお渡しください。

背表紙の下部に貼ってあるラベルの数字・カナです。

◆ 数字は資料の内容を、カナは原則著者の頭文字を表しています。
 本棚には、ラベルの数字順・カナ順に並んでいます。
 日本の小説、絵本、紙芝居のラベルには、カナのみが表示されています。



所蔵館の資料の状態です。

◆ 「貸出中」の場合は予約をどうぞ！

貸出しできません。館内をご覧ください。

◆ 貸出しをご希望の場合は、「禁帯」でない資料が他の館にあれば、予約で取り寄せることができます！

他にも・・・



予約の際に、予約カードと一緒にこのレシートを出していただくと、書名や著者名の記入を省略できます。

新聞の地域版をまとめて見たい！



朝日・産経・東京・読売の各紙があります

新聞には、特定の地方の読者を対象としてその地域に関する記事を集めた面（地域版）があります。地域版を見てみると、当時の多摩地域でどのようなことがニュースになっていたのかがわかります。

調布市立図書館では、新聞の地域版を独自に製本しています。製本した新聞地域版は中央図書館5階倉庫内に所蔵して



昭和50年代から所蔵しています

います。手に取ってご覧になりたい方は、5階カウンターにお問い合わせください。

また、調布に関するスクラップ記事は調布デジコン（調布市立図書館デジタルコンテンツデータベース）より、電子データでも検索することができます。調布デジコンは、全館のぴゅー太及び中央図書館5階の端末でご利用いただけます。



スクラップ作業の様子を覗いてみよう・・・



切り抜き作業は複数の分館が担当しています。新聞に傷みがある場合は、他の分館から原紙を取り寄せます。

チェック表に基づいて、抜き取りミスがないか複数の目で点検します。



取りまとめを行う館が最終チェックをした後、製本業者へ委託します。



改修工事が終わりました

染地分館

染地分館及び染地地域福祉センターは、令和4年8月1日から令和5年3月31日まで臨時休館し、建物の屋上防水、外壁、給排水を含むトイレ改修、電気設備、内装等の改修工事を行いました。



休館中にご不便をおかけしました。
きれいになった染地分館に
ぜひお出かけください。



若葉分館

おはなし室が 使えるようになりました



令和2年以降、使用を中止していた若葉分館おはなし室の工事が完了し、8月から使えるようになりました。毎週水曜日のおはなし会を始め、子ども向けのイベントを専用のお部屋で楽しむことができます。

若葉分館のおはなし会

- 【0・1・2歳児対象】
毎月最終金曜日 11時～
- 【幼児（3歳～未就学児）対象】
毎週水曜日 15時～
- 【小学生対象】
毎週水曜日 15時30分～



※おはなし会は全図書館で実施しています。
絵本の読み聞かせやわらべ歌など、季節感溢れるプログラムを用意しています。
各館により曜日や時間が異なりますので、ご確認の上ご来館ください。

夜空のむこう

「夜空のむこう」というテーマで、夜空や星に関連する本を集めました。中学生向けガイドスでご紹介した本ですが、世代を超えて楽しんでいただけます。すべて図書館で借りられます。気になった本があればぜひ手に取ってみてください。



星空を届けたいー出張プラネタリウム、はじめました!ー

高橋真理子／文 早川世詩男／絵 ほるぷ出版 2018年
プラネタリウムが出張できるなんて知りませんでした。壁にぶつかっても、大好きなものに一直線で突き進む著者の熱意に勇気づけられます。

銀河鉄道の夜(宮沢賢治童話全集 11)

宮沢賢治／著 宮沢清六／編集 堀尾青史／編集 岩崎書店 2016年
未完でありながら美しい文章と世界観は今なお多くの人の心を掴む作品です。読んだみなさんにとっても「すきとおったほんとうのたべもの」になりますように。



星くずクライミング

榎崎茜／作 杉山巧／画 くもん出版 2019年
視覚障害のあるアスリートがボルダリングをする、パラクライミングという競技を初めて知りました。主人公2人の関係性もよいのですが、登るルートを星座に見立てるシーンが印象的です。

星の王子さま 改版

サン＝テグジュペリ／作 内藤濯／訳 岩波書店 1982年
読む人によって好きなシーン、好きなセリフが変わると思う作品です。子どもが読んでも面白いのですが、「自分はまだまだ子ども…」と思っている大人にこそささるのではないのでしょうか。



世界の美しい夜空

ババク・タフレシ／著 片神貴子／訳 玄光社 2020年
借りるには重いけれど、とても癒される写真集。光柱現象や月虹なんて初めて見ました！日本の夜空の写真も掲載されています。天体観測したくなる1冊。

星空教室 夏の星座

藤井旭／著 誠文堂新光社 2021年

星座早見盤やスマホアプリも便利ですが、暗くて電波の届かないところで役に立つのは、まず知識ではないでしょうか。星座の探し方が易しく解説されています。春・秋・冬版もあります。



自作のプラネタリウムーペーパークラフトで作ろう！ー

大野裕明／著 アンドリュー・デュアー／著 二見書房 2007年

プラネタリウムを作るのは大変ですが、自分で作れば愛着がわきそう。プラネタリウムの種類も解説されています。



水彩で描く色鮮やかな天体ー星空から、惑星、星座、銀河までー

アリーヌ・デオン／著 藤村奈緒美／訳 ホビージャパン 2021年

天体の描き方を紹介した本は珍しいのではないのでしょうか。初心者向けではないですが、黒や紺だけではない、色とりどりの夜空、星座、惑星を描きたいと思った時に手に取ってみてください。



図書館の職場体験に

中学生がやってきた！



調布市立中学校では、2年生が地域の事業所等で3日間程仕事を体験する取組を行っています。新型コロナウイルスの影響で中止していましたが、今年は4年ぶりに再開され図書館にも18人の中学生が来てくれました。

本棚の整理や予約本の仕分け、絵本の読み聞かせなど、普段は見えない裏方の作業を実習してもらいました。参加した中学生からは「図書館が他の施設と協力していることがわかった」「来館者から挨拶をしてくれて嬉しかった」との声が聞かれました。

がんばって取り組む中学生たちを、温かく見守っていただきありがとうございました。



各館から届いた本や書類を仕分けています



予約のついた本を棚から取り出しています

1. はじめに

昔から、お盆やお彼岸は死者の霊をまつり、死後の世界に思いをはせる機会となっています。明治時代の調布の人々のあいだでは、人の死とは、身体から魂がぬけ出ることと考えられていました。

死者が住みなれた家から永遠に離れることで、遺族に悲しみをもたらします。しかし、死は最大のケガレともされており、死者の身体を離れ、この世に^{しゅうちやく}執着や不満をもった魂は、近親者や共同生活を営む村の人々にも^{わざわ}災いをおよぼすと恐れられていました。

2. 不安定は魂と水かけ着物

今も墓参のときに、墓石に水をかける習慣があります。これは死者の魂のミソギ^{はらえ}祓（ケガレを祓うために水で身を清めること）のために行なうと考えられています。

調布には、「水かけ着物」といって、葬送後、七日間とか四十九日間、死者が生前身につけ、その霊魂がやどるとされた着物を裏庭で北向きにつるし、毎日、水をかけて乾かないようにしました。その期間中、死者の魂は家に残っているともしわれたので、水で心残りを洗い流して、魂を落ち着かせるようにしました。

3. 出棺と野帰りの風習

「土葬^{どそう}」を行っていた時代には、深大寺地区では、死者の棺を玄関ではなく縁側から庭に出しました。庭には縄を張った四本の竹を^{かりもん}仮門として立て、棺がそこをくぐって墓地に向かうと、死者の魂が家に再びもどらないようにと願い、その竹を埋葬した上に突き刺してきました。

入間地区では、埋葬から帰ると、家に入る前に、さかさに伏せた^{うす}臼に、手足を洗う水と塩をのせて清めました。下石原でも、臼を家の縁側の外に北向きにねかせておきました。

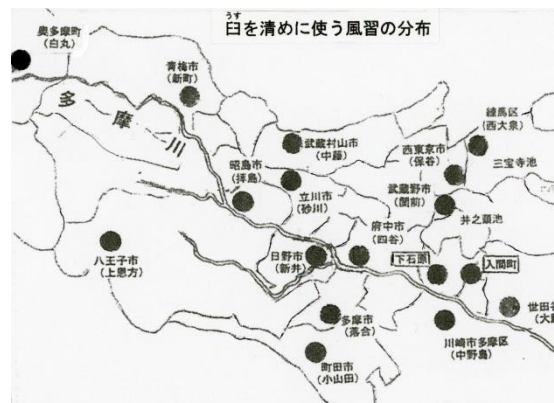
このような儀礼には、死者の荒ぶれる魂や、死のケガレと縁を切る意味がありました。

4. 臼を清めに使う伝承

臼は祝い事や人の一生の節目に、特別な食物である餅などをつくるときに使われ、霊力のこもった道具と考えられていました。関東地方の類似の風習をみると、「^{しじゅうくもち}四十九餅」といって、もともとは四十九日間の^も喪（世間とのつきあいを避ける期間）が明けたときに、臼で餅がつかれ、仏壇や寺に供えられたものです。

下図のように、東京あたりでは、多摩川流域や湧水池の付近に、喪の終わりをつげる臼（または臼の絵）が清めに使われています。

あの世とこの世の境と考えられていた川では、^{ろう}籠流しも行われ、死者の魂が浮かばれることで、平穏な暮らしができること期待されました。地域に残されたこのような伝承は、調布の土地柄を知るための手がかりになるでしょう。



※参考文献 ○『調布市史民俗編』 ○『関東の葬送・墓制』
○調布の文化財第9号

刊行物番号

2023-124

図書館だより 第268号

令和 5年9月25日発行 [市内印刷]

発行 調布市立図書館

〒182-0026 東京都調布市小島町2-33-1

TEL 042-441-6181

<http://www.lib.city.chofu.tokyo.jp/>